

ディーパあかね改修



福井県初(平成元年)の介護老人保健施設『ディーパあかね』としてお年寄りの快適な場の提供に努めてきましたが、県内には既に37施設に増えています。そして、26年間を経過したのを機会に改修工事を着工することになりました。

こうして多くの施設が出来て、26年を経る当施設は、老



「ディーパあかね」のディーパは古代インド語で島とか洲を意味する言葉です。雨季時期に洪水になり小高い丘に集まりそこで避難して、瞑想、チェスなどを楽しんだりしたそうです。
老健施設は平成元年に病院と家庭の中間施設として設立しました。現在、県内の老健は37件、約3千人の定員(特老は68件、約4千人)です。

性のコアデザイナーを交えて構想を練りました。
快適温度で生活できようように二重窓と障子戸の導入、転倒しても衝撃の少ない床材、車椅子が多くなったため洗面台の高さの調整を行いました。また、タンスも新調し、シックな色合いの使いやすい居室としました。
工事中利用者は、日毎に変わって行くことをとても楽しみにしているようでした。「新しく綺麗になっていいわ」「障子が入ったから和をイメージした感じの部屋になった」とご意見を頂いております。改修中は、騒音等ご迷惑をおかけしました。



朽化が目立ちニーズにお応えできないことも増えてきました。そこで当施設の主任、女

あかね祭

「地域と共に笑顔の輪」

天候にも恵まれて10月18日(土)にあかね祭を行いました。例年の展示品や模擬店・幼稚園の演技そして、劇団「幸齢者」劇が開かれました。

参加した利用者や家族の方が展示作品を見て、「私も習字をしていたが、もう歳だから、手が震えて上手く書けないからと、諦めてしまっていた。自分より年上の方々の素敵な作品を見せて頂き頑張らないといけない」と思いました。また、演技を見て「磯部東幼保育園の元気な太鼓や踊りを見ていると可愛いし、元気が出ます」と話されました。



＜劇団 幸齢者＞

平均80歳です。大きな声と観客を引き付ける雰囲気、その熱意が伝わり昔話を聞いているようですごく楽しかったです」と和やかに楽しまれた様子が伺えました。
今年度のテーマは「笑顔と共に地域の輪」でした。お祭りに限らずあかね会の職員として、今後とも地域の皆様と笑顔で一つの輪となるように務めていきたいと思っております。
(実行委員長 山崎)



＜展示を楽しまれる＞

